

医療用医薬品 再評価結果のご案内〈No.30〉

付使用上の注意事項

〔昭和63年度(その2)―その29〕

発行：日本製薬団体連合会／編集：薬効委員会

利尿剤

肝臓疾患用剤

代謝性医薬品

昭和63年9月

日本製薬団体連合会

医療用医薬品再評価結果のご案内 No. 30

〔昭和63年度(その2)―その29〕

ご 挨拶

謹 啓

時下、先生には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、ご高承のこととは存じますが、医療用医薬品の有効性と安全性の立場から再評価が行われております。

今回、医療用医薬品再評価結果が昭和63年度(その2)―その29として、利尿剤、肝臓疾患用剤、代謝性医薬品の一部について昭和63年9月1日付薬発第752号厚生省薬務局長名で通知されました。

日本製薬団体連合会では、薬効委員会の再評価共同作業の申し合わせにより、各社が協力して今回再評価結果が通知されました医療用医薬品の効能・効果、用法・用量及び使用上の注意をまとめ、ご案内<No. 30>を作成してお届けすることに致しました。

使用上の注意につきましては、昭和63年9月1日付薬安第96号厚生省薬務局安全課長名で通知されたものを記載しました。

各メーカーにおきましては、再評価結果に基づき添付文書を可及的速やかに改訂の上お届けするよう努力しておりますが、とりあえずこのご案内<No. 30>をご高覧の上ご利用いただきたく、お願い申し上げます。

敬 具

昭和63年9月

日本製薬団体連合会

〒103 東京都中央区日本橋本町2の1の5

TEL 03(270)0581(代表)

◇…目 次…◇

利尿剤

- 1. 酢酸カリウム …………… 5
- 2. 硝酸カリウム …………… 6

肝臓疾患用剤

- アスパラギン酸塩 …………… 8

代謝性医薬品

- 1. チオクト酸 …………… 11
- 2. チオクト酸アミド …………… 12
- 3. L-システイン …………… 13

本文掲載以外の該当品目 …………… 14

再評価申請後に申請者が承認を整理した品目及びその販売名（会社名） …………… 15

ご利用の手引

1. ご案内本文に記載の**販売名（会社名）**は、日本製薬団体連合会薬効委員会の再評価共同作業の申し合わせにより再評価の申請を行い、今回の通知の時点で製造（輸入）・販売を行っているものを掲載してあります。カッコ内の会社名の次に記載してあります会社名（例：〇〇〇製薬－△△薬品）は販売を行っている会社です。
2. 通知対象品目のうち、本文記載の成分又は処方と同一の評価を受けましたが、現に販売していないもの及び掲載希望のなかった**販売名（会社名）**は末尾に一括して掲載してあります。
3. 使用上の注意は昭和 63 年 9 月 1 日付薬安第 96 号厚生省薬務局安全課長名にて通知されたものです。
4. なお、使用上の注意における副作用の発現頻度は、「まれに」0.1%未満、「ときに」0.1～5%未満、副詞なしは5%以上又は頻度不明の場合です。

●お問い合わせは—日本製薬団体連合会

〒103 東京都中央区日本橋本町2の1の5
TEL 03(270)0581（代表）

◇…利尿剤…◇

1. 酢酸カリウム

(経口)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	1. 浮腫における利尿 2. カリウム欠乏症	下記疾患におけるカリウム補給 重症嘔吐, 下痢, カリウム摂取不足及び手術後
用法・用量	酢酸カリウム液 (100 ml 中酢酸カリウム約 38 g を含有する): 1 回 5 ml, 1 日 15 ml を経口投与する。 なお, 年齢・症状により適宜増減する。 酢酸カリウム水 (100 ml 中酢酸カリウム約 3.8 g を含有する): 1 回 30 ml, 1 日 100 ml を経口投与する。 なお, 年齢・症状により適宜増減する。	酢酸カリウムとして, 通常成人 1 日 5.7 g を希釈溶液とし, 3 回に分割経口投与する。 なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

評価判定: 効能・効果のうち「浮腫における利尿」については提出された資料から有効性を確認することができなかった。「カリウム欠乏症」についてはより適切な表現に改めた。また, 用法・用量についてもより適切な表現に改めた。

使用上の注意

1. 一般的注意

本剤の投与に際しては, 患者の血清電解質及び心電図の変化に注意すること。特に, 長期投与する場合には, 血中又は尿中のカリウム値, 腎機能, 心電図等を定期的に検査することが望ましい。また, 高カリウム血症があらわれた場合には, 投与を中止すること。

2. 次の患者には投与しないこと

- (1) 重篤な腎機能障害 (前日の尿量が 500 ml 以下あるいは投与直前の排尿が 1 時間当たり 20 ml 以下) のある患者
- (2) 副腎機能障害 (アジソン病) のある患者
- (3) 高カリウム血症の患者

3. 次の患者には慎重に投与すること

- (1) 腎機能低下あるいは腎機能障害のある患者

(2) 急性脱水症, 広範囲の組織損傷 (熱傷, 外傷等) のある患者

(3) 高カリウム血症があらわれやすい疾患 (低レニン性低アルドステロン症等) を有する患者

4. 副作用

(1) 消化器 胃腸障害, 食欲不振, 下痢等があらわれることがある。

(2) 循環器 一時に大量を投与すると心臓伝導障害があらわれることがある。

5. 妊婦・授乳婦への投与

妊娠中及び授乳中の投与に関する安全性は確立していないので, 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人に投与する場合には, 慎重に投与すること。

6. 相互作用

次の医薬品との併用により高カリウム血症を起こすことがあるので、併用する場合には注意すること。

カリウム貯留性利尿剤(スピロノラクトン、
トリアムテレン等)

7. 適用上の注意

薄めずにそのまま投与すると胃腸障害を起こ

すおそれがあるので、多量の水(10~20 倍量の水)で薄めて使用すること。

販売名(会社名)

酢酸カリウム液「ヨシダ」(吉田製薬)、酢酸カリウム液(ミツマル)(三丸製薬)、酢酸カリウム液、OY(オリエンタル薬品工業)

2. 硝酸カリウム

(経口)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	カリウム欠乏症 心不全による浮腫、腎炎およびネフローゼにおける浮腫の治療 利尿薬 胸水、腹水、水腫、肋膜炎その他の浸出物吸収の目的で使用	下記疾患におけるカリウム補給 重症嘔吐、下痢、カリウム摂取不足及び手術後
用法・用量	常用量 1日0.3~1gを希釈溶液として経口投与する。 但し、年齢、症状により適宜増減する。	硝酸カリウムとして、通常成人1日0.3~1gを希釈溶液とし、3回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

評価判定：効能・効果のうち、「利尿薬」については提出された資料から有効性を確認することができなかった。「カリウム欠乏症」についてはより適切な表現に改めた。また、用法・用量についてもより適切な表現に改めた。

使用上の注意

1. 一般的注意

本剤の投与に際しては、患者の血清電解質及び心電図の変化に注意すること。特に、長期投与する場合には、血中又は尿中のカリウム値、腎機能、心電図等を定期的に検査することが望ましい。また、高カリウム血症があらわれた場合には、投与を中止すること。

2. 次の患者には投与しないこと

- (1) 重篤な腎機能障害(前日の尿量が500 ml以下あるいは投与直前の排尿が1時間当たり20 ml以下)のある患者
- (2) 副腎機能障害(アジソン病)のある患者

(3) 高カリウム血症の患者

(4) 消化管の通過障害のある患者

3. 次の患者には慎重に投与すること

- (1) 腎機能低下あるいは腎機能障害のある患者
- (2) 急性脱水症、広範囲の組織損傷(熱傷、外傷等)のある患者
- (3) 高カリウム血症があらわれやすい疾患(低レニン性低アルドステロン症等)を有する患者

4. 副作用

- (1) 消化器 まれに、小腸の閉塞、潰瘍又は穿孔があらわれることがあるので、観察を十分に行い、腹痛、嘔気、消化管出血等の症状が

あらわれた場合には、投与を中止すること。

(2) 循環器 一時に大量を投与すると心臓伝導障害があらわれることがある。

5. 妊婦・授乳婦への投与

妊娠中及び授乳中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人に投与する場合には、慎重に投与すること。

6. 相互作用

次の医薬品との併用により高カリウム血症を起こすことがあるので、併用する場合には注

意すること。

カリウム貯留性利尿剤(スピロノラクトン、トリアムテレン等)

7. 適用上の注意

薄めずにそのまま投与すると胃腸障害を起こすおそれがあるので、多量の水(10~20倍量の水)で薄めて使用すること。

販売名(会社名)

硝酸カリウム、OY(オリエンタル薬品工業)、
硝酸カリウム「ミヤザワ」(宮沢薬品)

◇…肝臓疾患用剤…◇

アスパラギン酸塩

(経口, 注射)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	<p>肝機能障害(急・慢性肝炎, 肝硬変, 肝性昏睡, 胆汁分泌不全, 妊娠中毒), 高アンモニア血症, 低カリウム時におけるカリウム補給, 疲労回復, 眼精疲労, 難聴, 放射線宿酔の予防及び治療</p> <p>次の患者における諸症状の改善</p> <p>狭心症, 心不全, 心筋障害, 冠不全, 周期性四肢麻痺</p>	<p>下記疾患又は状態におけるカリウム補給(マグネシウム欠乏を合併している疑いのある場合)</p> <p>降圧利尿剤, 副腎皮質ホルモン, 強心配糖体, インスリン, ある種の抗生物質などの連用時</p> <p>低カリウム血症型周期性四肢麻痺</p> <p>心疾患時の低カリウム状態</p> <p>肝疾患時の低カリウム状態</p> <p>重症嘔吐, 下痢, カリウム摂取不足及び手術後</p>
用法・用量	<p>経口剤</p> <p>(錠剤; L-アスパラギン酸カリウム 75 mg, L-アスパラギン酸マグネシウム 75 mg 含有)</p> <p>通常本剤 1日 3~10 錠を服用する。</p> <p>症状により適宜増減する。</p> <p>注射剤</p> <p>(注射剤; 10 ml 中 L-アスパラギン酸カリウム 500 mg, L-アスパラギン酸マグネシウム 500 mg 含有)</p> <p>通常本剤 1日 10~20 ml を輸液に混合し, 注射速度を本品 10 ml 当り 30 分を標準として静脈内に点滴注射する。</p> <p>症状により適宜増量する。</p>	<p>経口剤</p> <p>原則として, L-アスパラギン酸カリウムとして 1日 225~750 mg を 2~3 回に分割経口投与する。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。</p> <p>注射剤</p> <p>通常成人 1回 10~20 ml (カリウムとして 2.92~5.84 mEq) を日本薬局方注射用蒸留水, 5%ブドウ糖注射液, 生理食塩液または他の適当な希釈剤で希釈する。その液の濃度はカリウムとして 40 mEq/l 以下として, 1分間 8 ml を超えない速度で静脈内注射する。</p> <p>なお, 年齢, 症状により適宜増減する。</p>

評価判定: 効能・効果のうち「低カリウム時におけるカリウム補給」以外の適応については提出された資料から有効性を確認することができなかった。「低カリウム時におけるカリウム補給」についてはマグネシウム欠乏を合併している疑いのある場合に有用性が認められるので, それが明らかとなるような表現に改めた。また, 用法・用量についても, より適切な表現に改めた。

使用上の注意

(経口)

1. 一般的注意

本剤の投与に際しては、患者の血清電解質及び心電図の変化に注意すること。特に、長期投与する場合には、血中又は尿中のカリウム値及びマグネシウム値、腎機能、心電図等を定期的に検査することが望ましい。また、高カリウム血症又は高マグネシウム血症があらわれた場合には、投与を中止すること。

2. 次の患者には投与しないこと

- (1) 重篤な腎機能障害（前日の尿量が500 ml以下あるいは投与直前の排尿が1時間当たり20 ml以下）のある患者
- (2) 副腎機能障害（アジソン病）のある患者
- (3) 高カリウム血症又は高マグネシウム血症の患者

3. 次の患者には慎重に投与すること

- (1) 腎機能低下あるいは腎機能障害のある患者
- (2) 急性脱水症、広範囲の組織損傷（熱傷、外傷等）のある患者
- (3) 高カリウム血症があらわれやすい疾患（低レニン性低アルドステロン症等）を有する患者
- (4) 高マグネシウム血症があらわれやすい疾患を有する患者

4. 副作用

- (1) 消化器 胃腸障害、胸やけ、下痢、嘔吐、腹部膨満感等があらわれることがある。
- (2) 循環器 一時に大量を投与すると心臓伝導障害があらわれることがある。
- (3) その他 倦怠感、熱感等があらわれることがある。

5. 妊婦・授乳婦への投与

妊娠中及び授乳中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人に投与する場合には、慎重に投与すること。

6. 未熟児、新生児、乳児への投与

未熟児、新生児、乳児に投与する場合には、慎重に投与すること。

7. 相互作用

- (1) 次の医薬品との併用により高カリウム血症を起こすことがあるので、併用する場合には注意すること。

カリウム貯留性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン等)

- (2) 次の医薬品はマグネシウムを含有する製剤と併用した場合、血中マグネシウム値を上昇させるとの報告があるので、併用する場合には注意すること。

活性型ビタミンD製剤(カルシトリオール、アルファカルシドール等)

8. その他

3週齢以下の幼若マウス及びラットにアスパラギン酸として250 mg/kg以上を投与すると、視床下部弓状核に病理組織学的変化を認めたという報告がある。

(注射)

1. 一般的注意

本剤の投与に際しては、患者の血清電解質及び心電図の変化に注意すること。特に、長期投与する場合には、血中又は尿中のカリウム値及びマグネシウム値、腎機能、心電図等を定期的に検査することが望ましい。また、高カリウム血症又は高マグネシウム血症があらわれた場合には、投与を中止すること。

2. 次の患者には投与しないこと

- (1) 重篤な腎機能障害（前日の尿量が500 ml以下あるいは投与直前の排尿が1時間当たり20 ml以下）のある患者
- (2) 副腎機能障害（アジソン病）のある患者
- (3) 高カリウム血症又は高マグネシウム血症の患者

3. 次の患者には慎重に投与すること

- (1) 腎機能低下あるいは腎機能障害のある患者
- (2) 急性脱水症、広範囲の組織損傷（熱傷、外傷等）のある患者
- (3) 高カリウム血症があらわれやすい疾患（低レニン性低アルドステロン症等）を有する患者

(4) 高マグネシウム血症があらわれやすい疾患を有する患者

4. 副作用

(1) 消化器 悪心・嘔吐，下痢等があらわれることがある。

(2) 投与部位 血管痛があらわれることがある。

(3) 循環器 一時に大量を投与すると心臓伝導障害があらわれることがある。

(4) その他 悪寒，戦慄，熱感，脱力感等があらわれることがある。

5. 妊婦・授乳婦への投与

妊娠中及び授乳中の投与に関する安全性は確立していないので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人に投与する場合には，慎重に投与すること。

6. 未熟児，新生児，乳児への投与

未熟児，新生児，乳児に投与する場合には，慎重に投与すること。

7. 相互作用

(1) 次の医薬品との併用により高カリウム血症を起こすことがあるので，併用する場合には注意すること。

カリウム貯留性利尿剤(スピロノラクトン，トリアムテレン等)

(2) 次の医薬品はマグネシウムを含有する製剤と併用した場合，血中マグネシウム値を上昇

させるとの報告があるので，併用する場合には注意すること。

活性型ビタミンD製剤(カルシトリオール，アルファカルシドール等)

8. その他

3週齢以下の幼若マウス及びラットにアスパラギン酸として250 mg/kg以上を投与すると，視床下部弓状核に病理組織学的変化を認めたとの報告がある。

9. 適用上の注意

(1) 点滴静脈内注射にのみ使用すること。

(2) カリウムとして40 mEq/l以下に希釈し，よく振盪混和した後，投与すること。

(3) 大量投与時，又は総合アミノ酸製剤を併用する場合には電解質バランスに注意すること。

販売名(会社名)

スパラギン錠(扶桑薬品工業)，アラパール錠(住友製薬)，アスピロン(沢井製薬)，パラスギン錠(マルコ製薬)，ワカミゲン(小林化工)，複合アスパラギン酸塩錠「ミタ」(東洋ファルマー)，アスパラ錠医家用，同散，同シロップ医家用，同注射液(田辺製薬)，アスキット-D錠(大正薬品工業)，ヘルタスD錠，同錠300，同散50(大日本製薬)，複方アスパラギン酸塩錠「トール」(東和薬品)，アスカルD(医家用)(メクト)

◇…代謝性医薬品…◇

1. チオクト酸

(経口・注射)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	<p><u>チオクト酸の需要が増大した際の補給(はげしい肉体労働時), Leigh 症候群(亜急性壊死性脳脊髄炎), 中毒性(ストレプトマイシン, カナマイシンによる)及び騒音性(職業性)の内耳性難聴</u></p> <p><u>上記の適応(効能又は効果)に対して, 効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。</u></p> <p>放射線宿酔</p>	<p>下線部同左 (再評価対象外)</p>
用法・用量	<p>(経口) チオクト酸として, 通常成人1日10~60mgを1~3回に分割経口投与する。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。</p> <p>(注射) チオクト酸として, 通常成人1日1回10~25mgを静脈内, 筋肉内又は皮下に注射する。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。</p>	承認内容と同じ

評価判定: 「放射線宿酔」については, 提出された資料から有効性を確認することができず, 有用性がないとされた。

使用上の注意

らわれることがある。

(経口・注射)

副作用

販売名(会社名)

(1) 消化器 ときに食欲不振, 悪心等があらわれることがある。

リポクトン(メクト), チオクタン注射液(藤沢薬品工業), チオクト酸注「イセイ」(イセイ)

(2) その他 ときに発疹, 頭痛, 顔面紅潮があ

2. チオクト酸アミド

(経口)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	チオクト酸の需要が増大した際の補給(はげしい肉体労働時)、 <u>Leigh 症候群(亜急性壊死性脳脊髄炎)</u> 、 <u>中毒性(ストレプトマイシン、カナマイシンによる)</u> 及び騒音性(職業性)の内耳性難聴 上記の適応(効能又は効果)に対して、 <u>効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。</u> 放射線宿酔	下線部同左 (再評価対象外)
用法・用量	チオクト酸アミドとして、通常成人1日10～60mgを1～3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容と同じ

評価判定：「放射線宿酔」については、提出された資料から有効性を確認することができず、有用性がないとされた。

使用上の注意

副作用

消化器 ときに食欲不振、悪心等があらわれることがある。

販売名(会社名)

チオクト酸アミド散「イワキ」(岩城製薬)、リポクトン散、同顆粒(メクト)、リスタノール顆粒(同仁医薬化工)、チオクト酸アミド3%顆粒(日本医薬品工業)、チオクタン細粒3%、同細粒10%

(藤沢薬品工業)、チオクト酸アミド<フジモト>3%顆粒(藤本製薬)、リポアミド散“フソー”(3%)、同(10%)、同顆粒“フソー”(扶桑薬品工業)、チオクト酸アミド3%顆粒、同10%顆粒、同3%散、同10%散(テーオーシー一星製薬)、チオクト酸アミド「ホリタ」3%顆粒、同10%(堀田薬品合成)、チオクト酸アミド散「イセイ」(イセイ)、チコリン顆粒3%、同顆粒10%(山之内製薬)、テルサーシン、同3%、同顆粒、同顆粒3(理研新薬)

3. L-システイン

(経口)

再評価を終了した医薬品の用法・用量及び効能・効果等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	<u>湿疹，中毒疹，薬疹，蕁麻疹，尋常性痤瘡，多形滲出性紅斑</u> <u>放射線障害による白血球減少症</u> 放射線宿酔	下線部同左 (再評価対象外)
用法・用量	湿疹，中毒疹，薬疹，蕁麻疹，尋常性痤瘡，多形滲出性紅斑，放射線宿酔に対しては，L-システインとして，通常成人1回80mgを1日2～3回経口投与する。 放射線障害による白血球減少症に対しては，L-システインとして，通常成人1回160mgを1日3回経口投与する。 なお，年齢，症状により適宜増減する。	湿疹，中毒疹，薬疹，蕁麻疹，尋常性痤瘡，多形滲出性紅斑に対しては，L-システインとして，通常成人1回80mgを1日2～3回経口投与する。 放射線障害による白血球減少症に対しては，L-システインとして，通常成人1回160mgを1日3回経口投与する。 なお，年齢，症状により適宜増減する。

評価判定：「放射線宿酔」については，提出された資料から有効性を確認することができず，有用性がないとされた。

使用上の注意

1. 副作用

消化器 ときに悪心，また，まれに下痢，口渇，軽度の腹痛等があらわれることがある。

2. 適用上の注意

放射線障害による白血球減少症の場合は，通

常，放射線照射1時間前より投与を開始すること。

販売名(会社名)

ハイチオール，同錠，同カプセル(エスエス製薬)

本文掲載以外の該当品目

以下の品目は、本文記載の成分と同一の評価を受けましたが、現に販売していないもの及び掲載の希望がなかったものについては、本文での掲載は省略しております。もしお手持の在庫品がございましたら、該当成分欄の再評価結果をご覧ください。

酢酸カリウム

酢酸カリウム液「ケンエー」(健栄製薬)、酢酸カリウム液「ニッコー」(日興製薬)、酢酸カリウム液「ホエイ」(保栄薬工)、酢酸カリウム液「司生堂」(司生堂製薬)、酢酸カリウム液「東海」(東海製薬)、酢酸カリウム液<ハチ>(東洋製薬化成)、酢酸カリウム液「ヤマゼン」(山善薬品)

アスパラギン酸塩

K・M・G(ケー・エム・ジー)錠(同仁医薬化工)、ヘルタスD散、同散20、同散30(大日本製薬)、複合アスパラギン酸塩錠(明治薬品)、ニチバラD(日本医薬品工業)、アスパラギン酸K・M錠(海外製薬)

チオクト酸

チオクト酸注射液「ダイサン」(帝三製薬)、リポイシン「タケダ」、10mgリポイシン注射液「タケダ」、25mgリポイシン注射液「タケダ」(武田薬品工業)、チオクトサンハチ(東洋製薬化成)、チオクト酸注射液「ナカノ」25mg(大洋薬品工業)、チオトミン(日新製薬)、チオクト酸3%顆粒、同10%顆粒(日本医薬品工業)、ドラボン(模範薬品)、チオクト酸、チコリン注射液(山之内製薬)

チオクト酸アミド

チオクトサンアミド散「ローラー」、10%チオクト酸アミド散「ローラー」、チオクト酸アミド(ローラー・ジャパン)、リポネトロン散「三研」30、同100、同顆粒「三研」(三和化学研究所)、チオクト酸アミド散(昭和新薬)、チオクト酸アミド顆粒(帝三製薬)、チオクト酸アミド「タケダ」(武田薬品工業)、チオクト酸アミド3%顆粒、同10%顆粒(東洋製薬化成)、リスタノール散(同仁医薬化工)、チオトミン散(日新製薬)、チオクト酸アミド3%散、同10%散、同10%顆粒(日本医薬品工業)、チオクタノール顆粒、同散「10%」、同散「3%」、同M単錠(藤沢薬品工業)、チオクト酸アミド<フジモト>10%顆粒(藤本製薬)、チオクト酸アミド「ホリタ」3%(堀田薬品合成)、チコリン(山之内製薬)、チオクトサン散3%「武田薬化」、同散10%「武田薬化」(武田薬化学研究所)

再評価申請後に申請者が承認を整理した品目及びその販売名（会社名）

利尿剤

酢酸カリウム 酢酸カリウム液(大塚製薬工場, 菱山製薬, 丸石製薬, エビス製薬, シオエ製薬, 大日本製薬, 山田製薬)

肝臓疾患用剤

アスパラギン酸塩 スパラギン散 (扶桑薬品工業), アラパール散(住友製薬), アスバラント「タツミ」医家用(辰己化学), アスパラギン酸塩錠協和, 同顆粒協和(協和醗酵), パラスギンシロップ, 同液, 同散, 同腸溶錠(マルコ製薬), アスパラギン 150, 同 300(三晃製薬工業), アスバラ M 錠(田辺製薬), パラス腸溶錠 (藤本製薬), ヘルタス D シロップ (大日本製薬), ハイパラ錠「ホッカ」, 同錠 300, 同散, 同顆粒, 同シロップ(北陸製薬)

代謝性医薬品

チオクト酸 チオクト酸散, 強力同散, 同顆粒「オーツカ」, 同 S 顆粒「オーツカ」, チオクトサン注「オーツカ」, 無痛性同注「オーツカ」(大塚製薬工場), チオクト酸顆粒オノ (小野薬品工業), チオクト酸注射液ハチ(東洋製薬化成), チオクト酸注射液「ナカノ」10 mg (大洋薬品工業), チオクタン注射液「無痛性」(藤沢薬品工業), 無痛性チオクト酸注「イセイ」(イセイ), チコリン注射液(筋注用)(山之内製薬), チオクトサン注「武田薬化」(武田薬化学研究所)

チオクト酸アミド チオクト酸アミド散, 強力同散, 同顆粒「オーツカ」, 同 S 顆粒「オーツカ」(大塚製薬工場), チオクト酸アミド 10 倍散, 同カプセル「ダイサン」(帝三製薬), リポイシン糖衣錠, 同顆粒, 3%同散, 10%同散(武田薬品工業), チオクト酸アミド<フジモト>10%散(藤本製薬), チオクト酸アミド散 10%「イセイ」(イセイ), チコリン散, 同 10% (山之内製薬)

利尿剤 ネフラルビン「注」(アツサ製薬)

泌尿生殖器官用剤 ハ克蘭, 同 H (ハ克蘭製薬)

消化器官用剤 $\bar{S} \cdot \bar{I} \cdot \bar{C}$ (B) (ユニナショナル製薬)

矯味矯臭着色剤 カンゾウエキス末「ゼンヤク」(全業工業), カンゾウエキス<ハチ> (東洋製薬化成)

歯科用鎮痛剤 強力カロナール錠(昭和薬品化工)

歯牙疾患用剤 オキシパライシイ (石井薬品工業), 歯科用トリオジンクパスタ, ノロオキシパラ歯科用, ネオコージノールセメント(野呂製薬所), ネオオキシパラ(日本歯科薬品), ネオアルゼン(ネオ薬品)